

高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第45週（11月5日～11月11日）

★お知らせ

インフルエンザ予防接種について！

季節性インフルエンザは、その年により流行の程度に差がありますが、例年11月頃から患者が増え始め、12月から3月頃にかけて流行します。インフルエンザワクチンは、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果が認められています。ワクチンを接種してから抗体ができて予防効果が発現するためには、およそ2週間かかると言われていています。かかりつけ医等医療機関にご相談のうえ、予防対策の1つとして予防接種をご検討下さい。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第44週の1.53から第45週は2.47と増加しています。中央西で急減、安芸、須崎で減少していますが、高知市で急増、幡多、中央東で増加しています。

学校欠席者・感染症情報システム※でも14例の報告があることから注意が必要です。

定点医療機関からのホット情報では、病原性大腸菌やカンピロバクター属菌、サルモネラ属菌等細菌を原因とする胃腸炎（サルモネラと病原性大腸菌の同時感染も含む）6例の報告や、ノロウイルス陽性1例の報告があります。

病原体検出情報では、臨床診断名が「感染性胃腸炎」から Sapovirus genogroup unknown と Adenovirus 3 が各1例、「細菌性腸炎」から Enteropathogenic *Escherichia coli* OUT が検出されています。

<予防方法> 手洗いが有効です。

帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。

便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

また、細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第44週の0.97から第45週は1.03と横ばいです。幡多で減少していますが、須崎で急増、中央東で増加しています。

学校等欠席者・感染症情報システム※でも溶連菌感染症22例の報告があることから注意が必要です。

定点医療機関からのホット情報では、溶連菌感染症1例や、「溶連菌感染症増加」の報告があります。

病原体検出情報では、高知市から搬入された検体から *Streptococcus pyogenes* TB3264 が1例検出されています。

この病気は、高熱・咽頭痛・おう吐を主症状とする細菌性の感染症で、熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。まれに重症化し、喉や舌・全身に発赤が広がる猩紅熱といわれる全身症状を呈します。また、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの合併症を起こすこともあります。

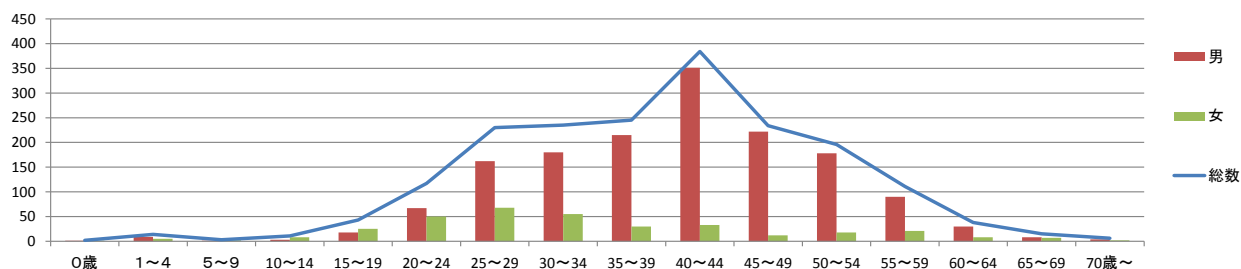
<予防方法> 人から人への飛沫感染・接触感染が主です

人と接触する機会が増える時期に感染が起こりやすく、家庭や学校など集団での感染も多くみられます。うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○風しんの届出数が多い状態が継続しています

関東地方を中心に風しんの報告が多い状態が継続しています。高知県の患者数は、2015（平成 27）年から報告はありませんが、2018（平成 30）年の全国患者数 1884 人（第 44 週まで）のうち 96%（1811 人）が成人で、男性が女性の 4.5 倍多くなっています（男性 1539 人、女性 345 人）。

第44週までの風しん報告数(年齢別・性別)



報告数の多い都道府県は、東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、愛知県以外に大阪府、福岡県、茨城県、兵庫県、静岡県など首都圏以外の地域からも報告が認められています。四国では、高知県を除く 3 県から報告がされており、報告のない県は高知県を含め第 44 週時点で 5 県となっています。

今後、全国的に感染が拡大する可能性がありますので注意してください。

<各医療機関管理者の皆様へ>

（高知県健康対策課 平成 30 年 8 月 17 日付け 30 高健対第 859 号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- ① 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- ② 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生研究所で行うので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

<県民の皆様へ>

風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。

風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1 歳児、小学校入学前 1 年間の幼児の方）

風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠 20 週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りにいる方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

風しん Q&A2018 年 1 月 30 日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

風しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

衛研ニュース第 20 号（高知県衛生研究所）30～50 歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム



☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かい春から秋にかけて盛んに活動し、この期間に多くの患者発生がみられますが、冬でも発生例が報告されています。これから寒い季節となりますが、屋外で活動される場合はマダニ対策を心がけましょう（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

また、「ツツガムシ」に咬まれることによって感染する「つつが虫病」にもご注意ください。高知県では秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫（0.2mm）」が媒介する感染症です。全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません。

予防対策については、マダニと同じく「ツツガムシに咬まれない」ことです。

屋外活動する時には、長袖や長ズボンで肌の露出を避けることや、ツツガムシに対する虫除け剤（有効成分：ディート）を活用するなどマダニと同様の対策をして注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

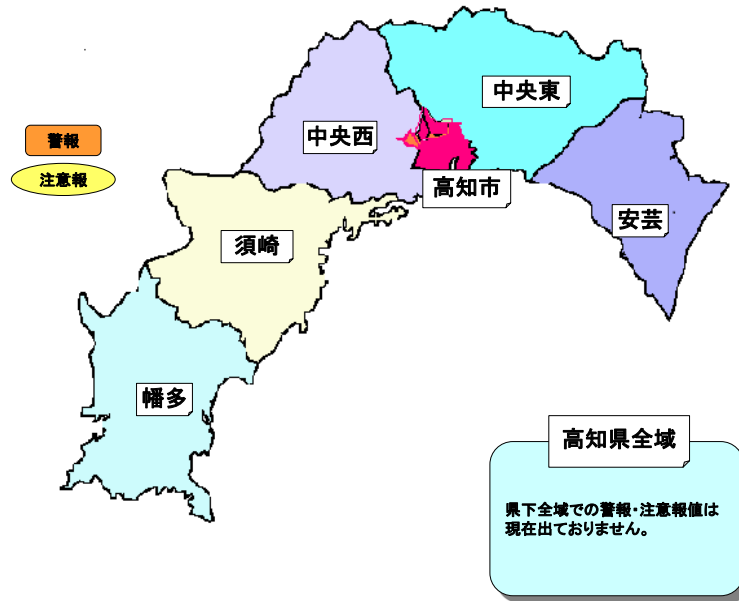
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり 報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	↗	2.47	中央西で急減、安芸、須崎で減少していますが、高知市で急増、県全域、幡多、中央東で増加しています。
A 群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	→	1.03	幡多で減少していますが、須崎で急増、中央東で増加しています。
RS ウイルス感染症	↗	0.63	幡多で急減していますが、中央西で急増、県全域、高知市で増加しています。
手足口病	↗	0.57	中央西で減少していますが、県全域、中央東、高知市で増加しています。
突発性発疹	↗	0.57	幡多、中央東、須崎、中央西で急増、県全域で増加しています。

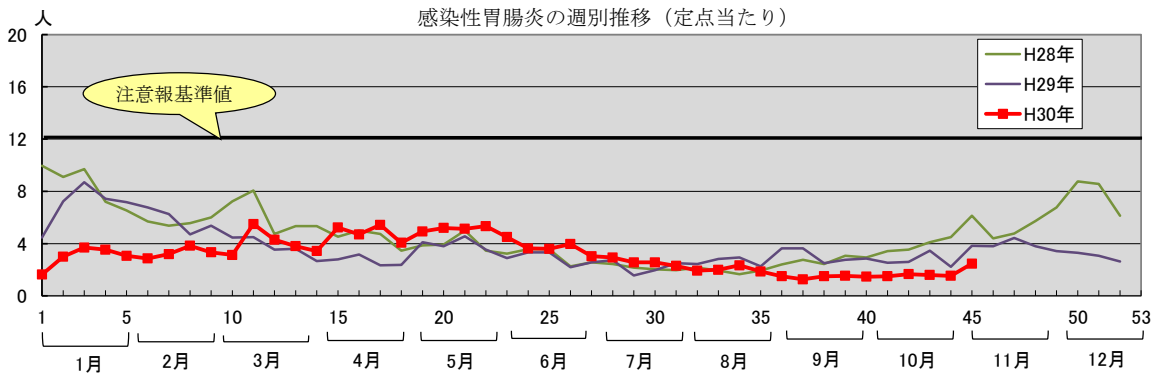
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

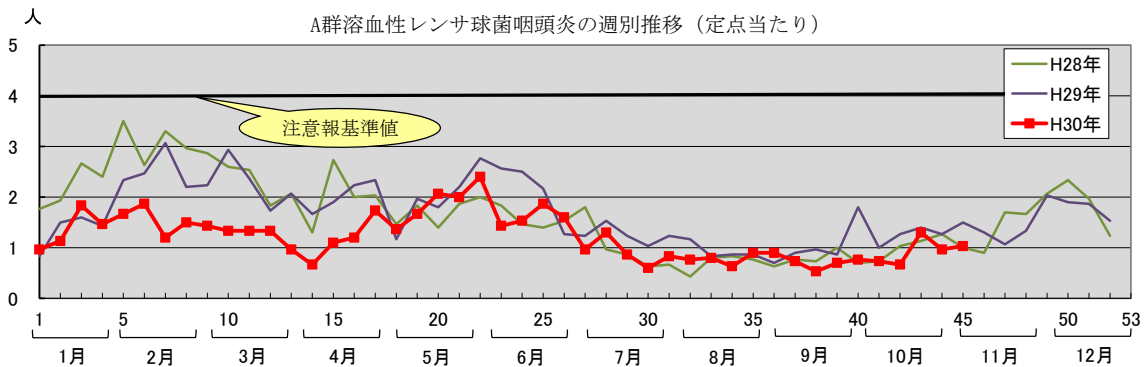
○感染性胃腸炎 第45週：2.47（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.47（前週：1.53）と増加しています。中央西 0.00（前週：0.67）で急減、安芸 3.00（前週：4.00）須崎 0.50（前週：1.00）で減少していますが、高知市 4.27（前週：1.73）で急増、幡多 2.00（前週：1.60）中央東 1.43（前週：1.00）で増加しています。



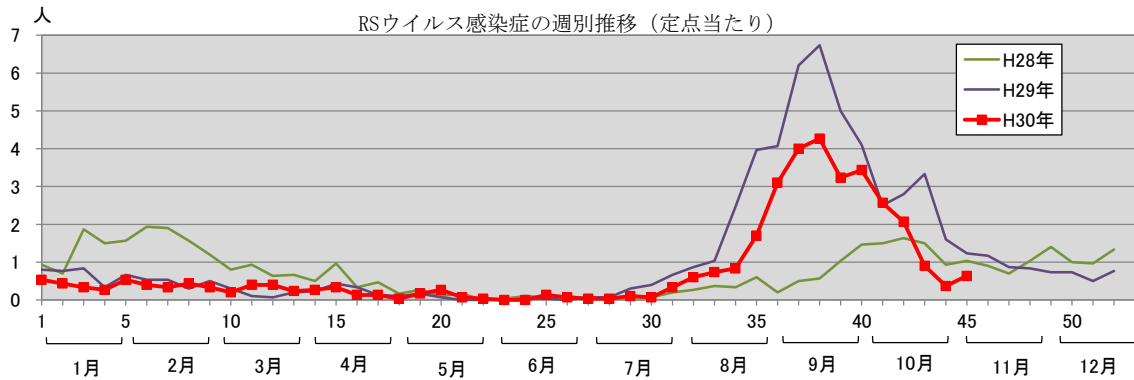
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第45週：1.03（注意報値：4.00 警報値：8.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.03（前週：0.97）と横ばいです。幡多 0.20（前週：0.40）で減少していますが、須崎 2.00（前週：0.50）で急増、中央東 0.86（前週：0.71）で増加しています。



〇RS ウイルス感染症 第45週：0.63 （注意報値：－ 警報値：－）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.63（前週：0.37）と増加しています。幡多 0.00（前週：0.40）で急減していますが、中央西 3.00（前週：0.67）で急増、高知市 0.64（前週：0.36）で増加しています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
45	呼吸器感染症	37℃,肺炎,	8ヶ月	女	中央東	Human metapneumovirus
45	感染性胃腸炎	下痢,	1	男	須崎	Sapovirus genogroup unknown
45	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃,上気道炎,	7	男	高知市	Streptococcus pyogenes TB3264

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
43	－	38℃,咳嗽,	3	男	高知市	Rhinovirus
44	－	下痢,嘔吐,嘔気,	1	女	須崎	Adenovirus 2
44	感染性胃腸炎	39℃,上気道炎,	7ヶ月	女	幡多	Adenovirus 3
44	上気道炎	40℃,嘔吐,嘔気,上気道炎,	8ヶ月	女	高知市	Echovirus 7
44	呼吸器感染症	38℃,咳嗽,気管支炎,	2	男	中央東	Enterovirus 68
44	急性咽頭炎	38℃,	9	男	須崎	Rhinovirus
44	細菌性腸炎	39℃,下痢,腹痛,	14	女	中央東	Enteropathogenic Escherichia coli OUT

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	85	80歳代 男	高知市
4類	レジオネラ症	1	8	70歳代 男	
5類	百日咳	1	165	5～9歳 男	
		1		10～14歳 女	
		1		10～14歳 女	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	早明浦病院小児科	溶連菌感染症 増加
	高知大学医学部付属病院小児科	ヒトメタニューモニア気管支炎 1例 (11ヶ月男)
高知市	けら小児科・アレルギー科	カンピロバクター腸炎 4例 (4歳、6歳、17歳、37歳) サルモネラ O-9群+病原性大腸菌 O-20 腸炎 病原性大腸菌 O-6 腸炎 アデノウイルス咽頭炎 2例 (0歳、32歳)
	福井小児科・内科・循環器科	咽頭結膜熱 1例 (5歳男) 伝染性紅斑 1例 (4歳女) 溶連菌感染症 1例
	細木病院小児科	ノロ 1例 (5歳男)
中央西	くぼたこどもクリニック	アデノウイルス感染症 1例 (8歳男)
須崎	もりはた小児科	滲出性扁桃炎 (アデノ+) 1例 (4歳女)
幡多	さたけ小児科	水痘 1例 (3歳男：ワクチン2回接種済み)

★全国情報

第43号（10月22日～10月28日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核338例

3類感染症：細菌性赤痢47例、腸管出血性大腸菌感染症56例

4類感染症：E型肝炎7例、A型肝炎6例、重症熱性血小板減少症候群3例、つつが虫病11例、デング熱3例
日本紅斑熱14例、マラリア3例、レジオネラ症43例

5類感染症：アメーバ赤痢15例、ウイルス性肝炎4例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症46例
急性弛緩性麻痺9例、急性脳炎3例、クリプトスポリジウム症10例、
クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例、
後天性免疫不全症候群7例、ジアルジア症3例、侵襲性インフルエンザ菌感染症7例、
侵襲性肺炎球菌感染症45例、水痘（入院例に限る）9例、梅毒84例、
播種性クリプトコックス症2例、破傷風2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症3例、
百日咳262例、風しん170例、麻しん5例

報告遅れ：つつが虫病1例、デング熱2例、日本紅斑熱7例、ライム病1例、レジオネラ症7例
レプトスピラ症2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症31例、急性弛緩性麻痺4例、
急性脳炎1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、水痘（入院例に限る）2例
梅毒59例、播種性クリプトコックス症1例、百日咳139例、風しん57例、麻しん1例
薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第45週 平成30年11月5日(月)～平成30年11月11日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第45週							計	前週	全国(44週)	高知県(45週末累計)		全国(44週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/11/11				H30/1/1～H30/11/4			
インフルエンザ	インフルエンザ				1				1 (0.02)	()	1,029 (0.21)	20,895 (435.31)	1,767,834 (358.01)			
小児科	咽頭結核熱		1		7	1			9 (0.30)	3 (0.10)	1,101 (0.35)	473 (15.77)	58,775 (18.64)			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			6	20			4	31 (1.03)	29 (0.97)	6,003 (1.90)	1,640 (54.67)	290,402 (92.10)			
	感染性胃腸炎		6	10	47			1	74 (2.47)	46 (1.53)	13,101 (4.14)	4,249 (141.63)	656,689 (208.27)			
	水痘			3	1				5 (0.17)	5 (0.17)	1,007 (0.32)	242 (8.07)	41,648 (13.21)			
	手足口病			10	3	3		1	17 (0.57)	13 (0.43)	2,443 (0.77)	1,083 (36.10)	107,333 (34.04)			
	伝染性紅斑			3	4				7 (0.23)	2 (0.07)	1,402 (0.44)	153 (5.10)	29,447 (9.34)			
	突発性発疹			4	8	1		1	17 (0.57)	10 (0.33)	1,164 (0.37)	472 (15.73)	60,918 (19.32)			
	ヘルパンギーナ			1	1				2 (0.07)	4 (0.13)	788 (0.25)	466 (15.53)	96,260 (30.53)			
	流行性耳下腺炎								1 (0.03)	1 (0.03)	350 (0.11)	61 (2.03)	20,701 (6.57)			
RSウイルス感染症			3	7	9			19 (0.63)	11 (0.37)	1,960 (0.62)	1,064 (35.47)	107,040 (33.95)				
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	6 (0.01)	()	496 (0.71)			
	流行性角結膜炎				1				1 (0.33)	2 (0.67)	560 (0.80)	104 (34.67)	25,683 (36.90)			
基幹	細菌性髄膜炎								()	1 (0.13)	14 (0.03)	4 (0.50)	426 (0.89)			
	無菌性髄膜炎								()	()	11 (0.02)	1 (0.13)	694 (1.45)			
	マイコプラズマ肺炎								()	()	147 (0.31)	86 (10.75)	4,205 (8.76)			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								()	1 (0.13)	3 (0.01)	18 (2.25)	128 (0.27)			
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)								()	()	7 (0.01)	32 (4.00)	3,088 (6.43)			
計(小児科定点当たり人数)		7 (3.50)	40 (5.72)	99 (8.91)	15 (4.86)	8 (4.00)	15 (3.00)	184 (6.09)			31,096 (765.41)	31,043 (765.41)	3,271,767			
前週(小児科定点当たり人数)		8 (4.00)	26 (3.71)	65 (5.54)	8 (2.67)	7 (3.50)	14 (2.80)		128 (4.13)							

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第45週							計	前週	全国(44週)	高知県(45週末累計)		全国(44週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/11/11				H30/1/1～H30/11/4			
インフルエンザ	インフルエンザ				0.20				0.02		0.21	435.31	358.01			
小児科	咽頭結核熱		0.50		0.64	0.33			0.30	0.10	0.35	15.77	18.64			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.86	1.82			2.00	0.20	1.03	0.97	54.67	92.10			
	感染性胃腸炎		3.00	1.43	4.27			0.50	2.00	2.47	1.53	141.63	208.27			
	水痘			0.43	0.09				0.20	0.17	0.32	8.07	13.21			
	手足口病			1.43	0.27	1.00		0.50	0.57	0.43	0.77	36.10	34.04			
	伝染性紅斑			0.43	0.36				0.23	0.07	0.44	5.10	9.34			
	突発性発疹			0.57	0.73	0.33		0.50	0.57	0.33	0.37	15.73	19.32			
	ヘルパンギーナ			0.14	0.09				0.07	0.13	0.25	15.53	30.53			
	流行性耳下腺炎								0.03	0.03	0.11	2.03	6.57			
RSウイルス感染症			0.43	0.64	3.00			0.63	0.37	0.62	35.47	33.95				
眼科	急性出血性結膜炎										0.01		0.71			
	流行性角結膜炎				1.00				0.33	0.67	0.80	34.67	36.90			
基幹	細菌性髄膜炎									0.13	0.03	0.50	0.89			
	無菌性髄膜炎									0.02	0.13	1.45				
	マイコプラズマ肺炎									0.31	10.75	8.76				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0.13	0.01	2.25	0.27			
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)										0.01	4.00	6.43			
計(小児科定点当たり人数)		3.50	5.72	8.91	4.86	4.00	3.00	6.09			765.41	765.41				
前週(小児科定点当たり人数)		4.00	3.71	5.54	2.67	3.50	2.80		4.13							

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2018年11月12日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。